

全国健康保険協会千葉支部 第98回評議会  
(平成30年5月29日開催)

ジェネリック医薬品の使用促進に向けた  
県内保険薬局へのアンケート調査について

---

# 目次

---

・ 事業の概要	1 ページ
・ 調査目的	2 ページ
・ アンケート結果	5 ページ
・ まとめ	12 ページ
・ (参考)質問項目	14 ページ

# 概要

## 【概要】

自薬局のジェネリック医薬品使用割合が千葉県内でどの位置に属しているのか確認していただくとともに、ジェネリック医薬品の使用促進に資することを目的として、千葉県内の保険薬局ごとにジェネリック医薬品の使用割合を算出し、使用割合に応じて4つの区分に分類した「薬局別ジェネリック医薬品使用割合通知」を作成。平成29年10月6日に医師会、薬剤師会と連名で千葉県内の2,190の保険薬局へ送付。(※使用データは、協会けんぽの平成28年10月調剤分のレセプトデータ)

その際に併せてアンケートによる調査を実施した。

↓ 使用割合と薬局規模に応じて以下の表のとおり区分けをした。

ジェネリック医薬品使用割合	区分	薬局数	大規模	中規模	小規模
80%以上	A	507	109	139	259
70%以上～80%未満	B	690	201	221	268
60%以上～70%未満	C	434	126	123	185
60%未満	D	559	117	128	314
合計		2,190	553	611	1,026
割合		100.0%	25.3%	27.9%	46.8%

※薬局の規模は次のように機械的に整理



- ◆大規模・・・平成28年10月の調剤数量30,000以上の薬局
  - ◆中規模・・・平成28年10月の調剤数量15,000以上30,000未満の薬局
  - ◆小規模・・・平成28年10月の調剤数量15,000未満の薬局
- (※調剤数量は、協会けんぽ平成28年10月調剤分レセプトデータから集計)

# 調査目的

## 【調査目的】

アンケートは、ジェネリック医薬品の使用促進に関する県内保険薬局の状況や考え方、抱えている課題等についての傾向を把握し、今後のジェネリック医薬品の普及促進と協会けんぽ千葉支部が取り組みを進めていくうえでの基礎資料とすることを目的とした。

## 【調査対象と調査方法】

調査対象：薬局別ジェネリック医薬品使用割合通知を送付した薬局2,190件  
(平成28年10月調剤レセプトデータベース)

調査時期：平成29年10月7日～平成29年10月31日

回答数：805件（回答率36.7%）

A区分薬局・・・211件 B区分薬局・・・267件  
C区分薬局・・・146件 D区分薬局・・・181件

(調査方法：アンケート用紙をFAXで回答)

- アンケート回答薬局805件について、ジェネリック医薬品使用割合の区分別や調剤数量の規模別に区分けすると以下の表のようになった。

【アンケート回答薬局内訳】

	回答数
A区分薬局	211
B区分薬局	267
C区分薬局	146
D区分薬局	181
合計	805

【薬局数】

	回答薬局数	大規模	中規模	小規模
A区分薬局	211	44	65	102
B区分薬局	267	79	83	105
C区分薬局	146	44	37	65
D区分薬局	181	36	51	94
合計	805	203	236	366

【割合】

	全体	大規模	中規模	小規模
A区分薬局	26.2%	20.9%	30.8%	48.3%
B区分薬局	33.2%	29.6%	31.1%	39.3%
C区分薬局	18.1%	30.1%	25.3%	44.5%
D区分薬局	22.5%	19.9%	28.2%	51.9%
合計	100.0%	25.2%	29.3%	45.5%

➤ **アンケートの有効性**

回答のあった薬局のジェネリック使用割合区分や調剤数による規模別に振り分けをした結果、送付した2,190機関の割合に近い結果となった。

回答薬局に偏りが生じず、有効な集計ができたと思われる。

《（参考 1Pより）送付した2,190薬局の割合》

	全体	大規模	中規模	小規模
A区分薬局	23.2%	21.5%	27.4%	51.1%
B区分薬局	31.5%	29.1%	32.0%	38.8%
C区分薬局	19.8%	29.0%	28.3%	42.6%
D区分薬局	25.5%	20.9%	22.9%	56.2%
合計	100.0%	25.3%	27.9%	46.8%



# アンケート結果について

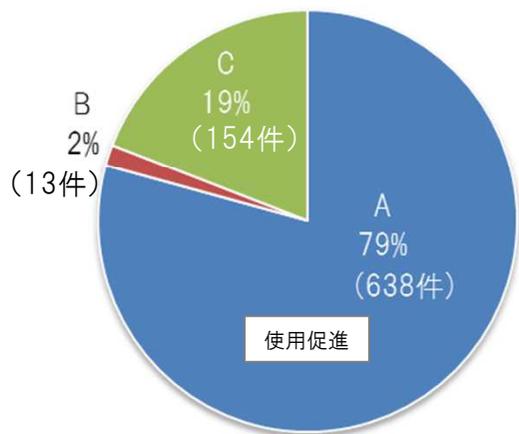
# アンケート結果について(質問①)【今後の方針】

## 【①】

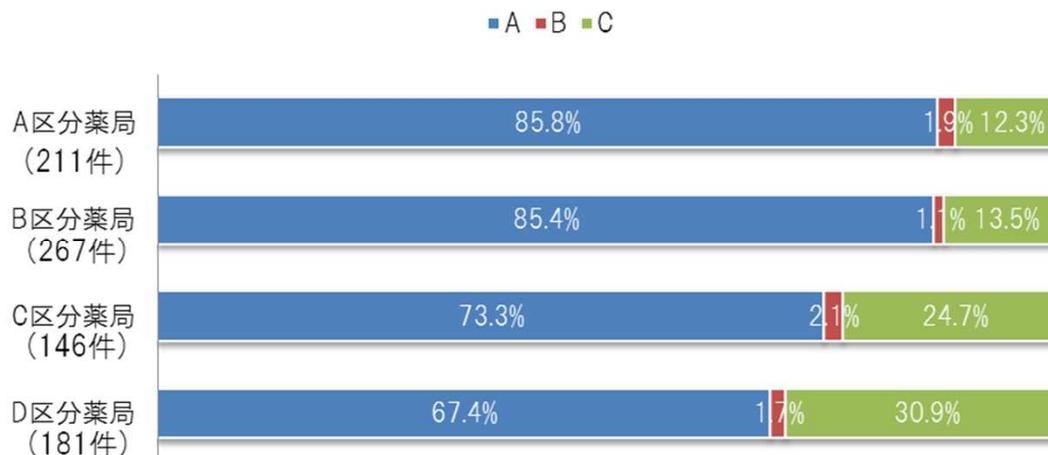
今回の通知をご覧になられて、ジェネリック医薬品の使用促進を更に進めようと思われましたか。(回答数805)

- A はい
- B いいえ
- C どちらともいえない

質問① 回答数(全体)



質問① 薬局区分別回答内訳



回答数の約8割(638件)は今回の使用割合通知を見ることで、ジェネリック医薬品の使用促進を更に進めようと感じたことから、一定の啓発効果はあったと評価できる。  
A~D区分薬局に行くほど、「はい」と回答する割合が低い結果となり、D区分薬局では「はい」と回答する薬局が7割を下回っている。

# アンケート結果について(質問②)【促進できない理由】

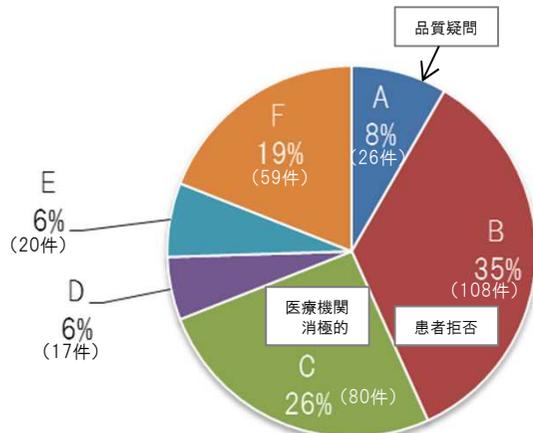
## 【②】

①でBまたはCと回答した薬局様に質問です。その理由を教えてください。

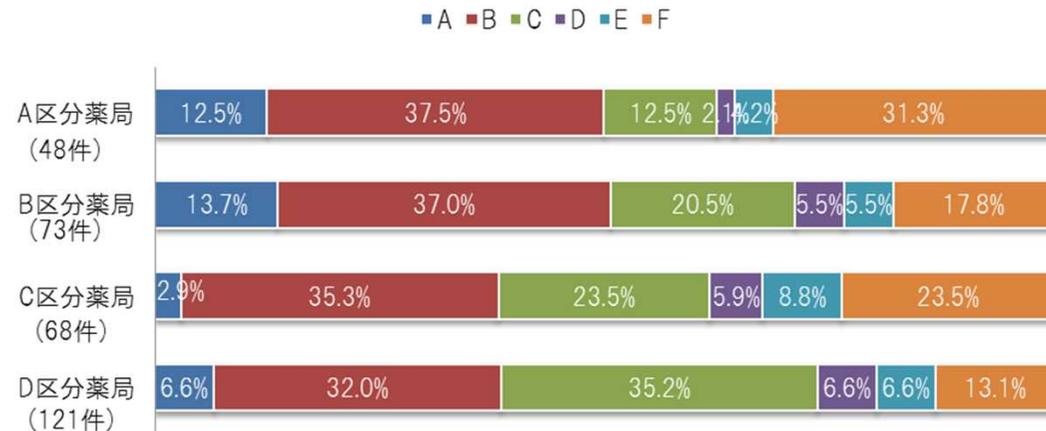
(複数回答可 回答薬局数178) 注) Aと回答した薬局も回答していたため、件数が多いことに注意

- A 品質・効果に疑問がある
- B 患者が拒否
- C 近隣の医療機関が消極的
- D 供給体制が整っていない
- E 貴薬局の負担となるため(在庫管理やシステム改修等)
- F その他( ) ※「その他」の内容については別添資料をご覧ください。

質問② 回答数(全体)



質問② 薬局区分別回答内訳



※＝複数回答可のため、回答数以上に件数があることに注意

ジェネリック医薬品使用促進を更に進めようと思わない理由として多くを占めるのは「B:患者が拒否」と「C:近隣の医療機関が消極的」である。区分別に分けるとA⇒Dに向かうにつれて「C:近隣の医療機関が消極的」の割合が増加していることから、近隣の医療機関の考え方が大きく影響していると推察される。  
 なお、「F:その他」の回答で、変更不可欄への✓という記載も見られた。「C:近隣の医療機関が消極的」と感じる理由が変更不可欄への✓である可能性もあるが、このアンケートでは検証できていない。

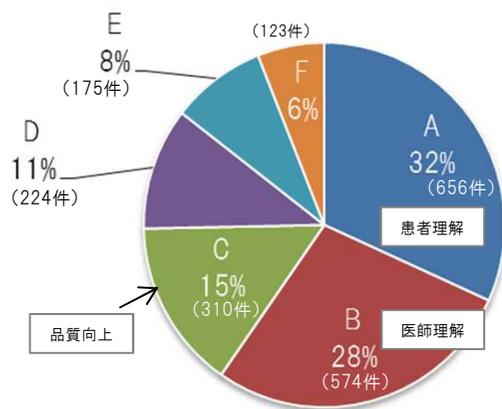
# アンケート結果について(質問③) 【促進に必要なこと】

## 【③】

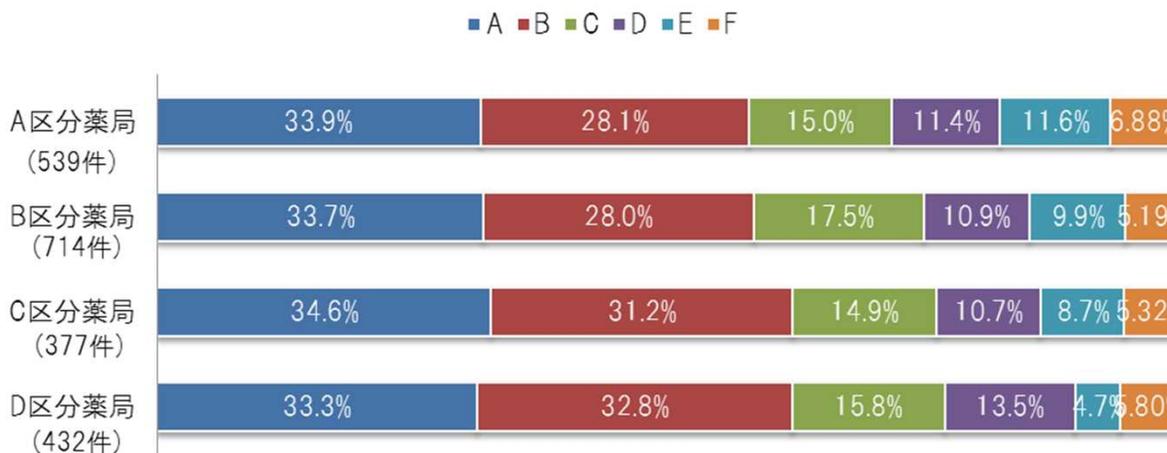
ジェネリック医薬品の更なる普及促進には何が必要だと思われますか。  
 (複数回答可 回答薬局数803)

- A 患者の理解
- B 医師の理解
- C ジェネリック医薬品の品質向上
- D ジェネリック医薬品の供給体制の整備、強化
- E 後発医薬品調剤体制加算を上げる等の制度改正
- F その他 ( ) ※「その他」の内容については別添資料をご覧ください。

質問③ 回答数(全体)



質問③ 薬局区別回答内訳



※=複数回答可のため、回答数以上に件数があることに注意

質問②と同じく、患者と医師の理解が不可欠であることは6割以上の薬局が思っているところであり、想定通りの結果が得られた。また、ジェネリック医薬品の品質や供給体制に関する要望もそれなりにあることが見られる。

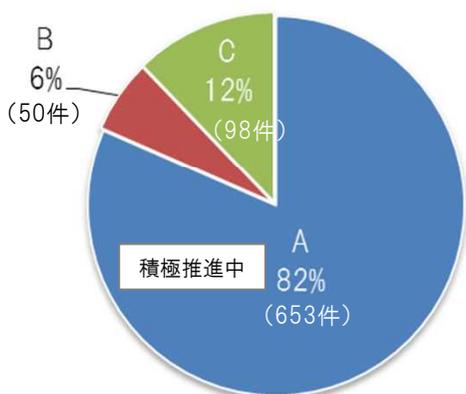
# アンケート結果について(質問④) 【変更不可となっていない場合】

## 【④】

医師が先発医薬品名で処方した場合でも、処方箋がジェネリック医薬品への変更不可となっていない限り、先発医薬品をジェネリック医薬品へ変更して調剤することが可能です。貴薬局では、変更不可となっていない先発医薬品名処方の場合、ジェネリック医薬品への切り替えの推進をされていますか。(回答薬局数801)

- A 積極的に推進している
- B あまり推進していない
- C どちらともいえない

質問④ 回答数(全体)



質問④ 薬局区分別回答内訳



全体の8割(653件)は積極的に切り替えを行っていることから、先発医薬品名処方の場合でもジェネリック医薬品への切り替え意識は高いことが分かる。

区分別に見ると、D区分薬局以外は8割以上が切り替えを推進している。一方D区分薬局では、回答した**半数近くの薬局が積極的に推進できない**と回答しているため、その理由を分析する必要がある。

# アンケート結果について(質問⑤)【推進できない理由】

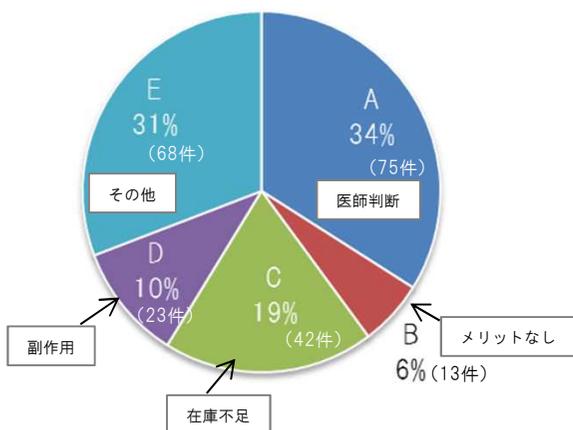
## 【⑤】

④でBまたはCと回答した薬局様に質問です。その理由を教えてください。

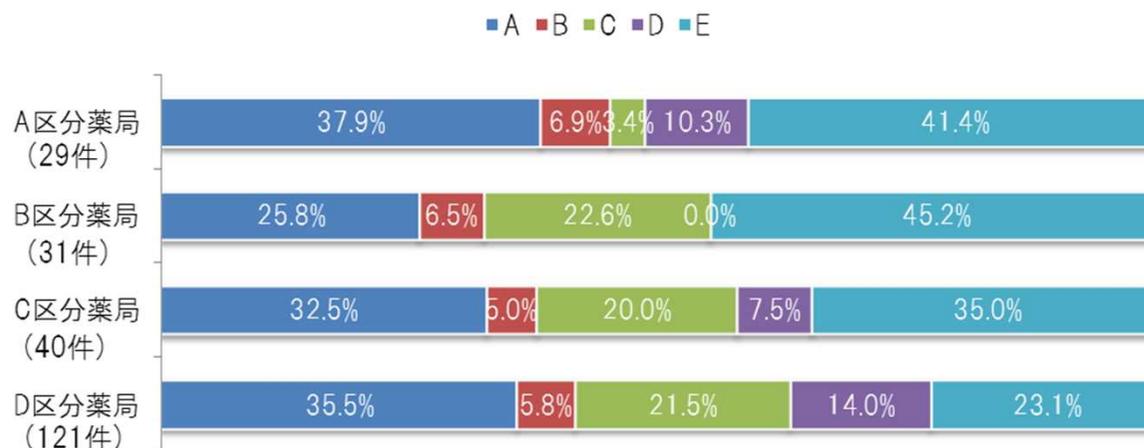
(複数回答可 回答数153) Aと回答した薬局も回答していたため、件数が多いことに注意

- A 医師の判断による処方であり変えづらい
- B 切り替えるメリットがない
- C ジェネリック医薬品の在庫不足
- D 切り替えることで副作用が出る可能性がある
- E その他 ( ) ※「その他」の内容については別添資料をご覧ください。

質問⑤ 回答内訳(全体)



質問⑤ 薬局区別回答内訳



※=複数回答可のため、回答数以上に件数があることに注意

どの区分においても、「A:医師の判断による処方であり変えづらい」と「E:その他」の割合が高く、「E:その他」には、患者からの拒否という理由が多かった。特にD区分薬局で多い「A:医師の判断による処方であり変えづらい」や「C:ジェネリック医薬品の在庫不足」など、薬局で解消できない問題か更に検証が必要と思われる。

# アンケート結果について(質問⑥) 【切り替え率向上のためには？】

## 【⑥】

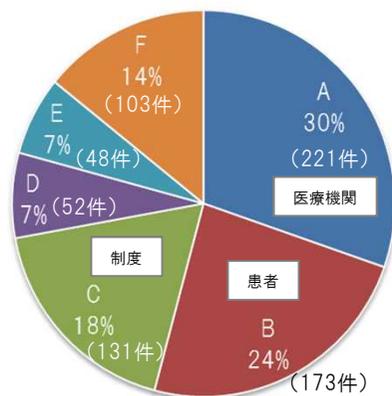
中医協が行った調査によると、先発医薬品名処方では一般名処方に比べジェネリック医薬品への切り替え率が低くなっています。先発医薬品名処方の場合でも一般名処方並みにジェネリック医薬品への切り替えがされるためには、何が必要だと思いますか。(切り替え率：一般名処方約77% 先発名処方約38%) (自由記入 回答数656)

※回答内容については別添資料をご覧ください。

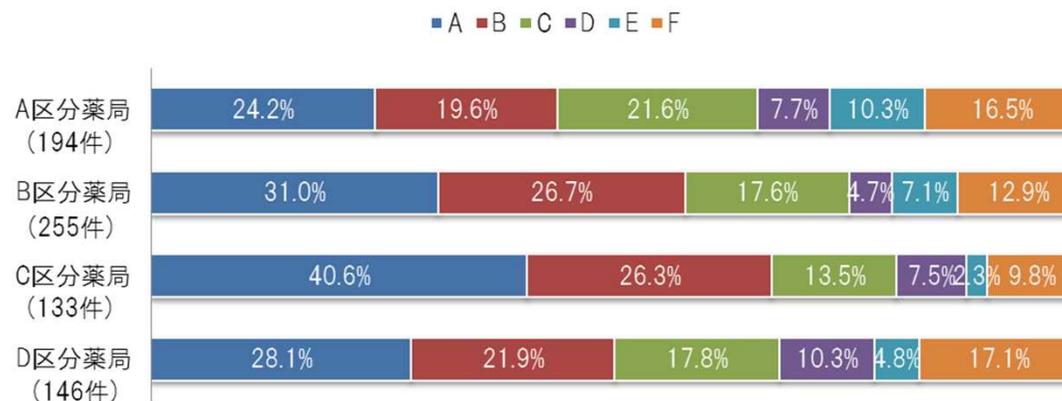
回答は自由記入であるが、各薬局がどのような点について問題意識を持っているのか傾向を把握するため、協会にて記入内容により以下の6項目に分類し整理した。

➤ A:医師(医療機関) B:患者 C:制度 D:ジェネリック医薬品の効果・供給体制等 E:薬局・薬剤師の意識 F:その他

質問⑥記述内容内訳(全体)



質問⑥ 記述内容内訳(薬局区分別)



※=複数項目に対して問題意識を持つ記述内容もあるため、件数が一致しないことに注意

医療機関の理解や患者の理解を望む声に加えて、「一般名処方の増加」「一般名処方の制度化」等を望む声が見られた。また、「薬局・薬剤師の意識」に関する意見も挙げられている。

## まとめ

---

- 今回の通知で使用促進意欲の向上が一定程度見込めたため、薬局ごとのジェネリック医薬品使用割合通知の送付は、使用促進に向けたきっかけ作りになることが確認できた。【質問①関連】
- ジェネリック医薬品の使用に消極的な理由として、患者の拒否と近隣の医療機関が消極的との意見が多く見られた。特にD区分薬局は、近隣の医療機関の考え方が、ジェネリック医薬品の使用割合に影響していると考えられ、対策を検討する必要があると思われる。【質問②、⑤関連】
- 患者や医療機関に理解を求める意見が多いことに加えて《薬剤師の積極的な説明》という意見も見られた。薬剤師が、これまで以上に積極的に推進できるよう、協会から加入者や薬局に対して情報提供等を継続的に実施していく必要があると考えられる。【質問⑥関連】

まとめを基に、これから千葉支部がジェネリック医薬品の使用促進に向けて考えられる取組として以下の2つを挙げる。

## これからの取り組み(案)

### I.患者への取り組み

患者に対して、もっとジェネリック医薬品を周知してほしいという意見が多くあったことから、県・医師会・薬剤師会等と連携し、より幅広い広報の実施を検討する。【質問③関連】

例) 電車の中吊り広告、ラジオを活用した広報 等

### II.薬局への取り組み

アンケート結果から、薬局・薬剤師の意識次第で使用割合に差が生じていることが考えられる。薬局・薬剤師が、更に意欲的にジェネリック医薬品を調剤するために、適切な情報提供等を行う。

例) 薬剤師等医療担当者を対象としたジェネリック医薬品セミナー 等

## (参考)質問項目

---

➤ 質問項目として以下の6問について回答をお願いした。

### 【①】

今回の通知をご覧になられて、ジェネリック医薬品の使用促進を更に進めようと思われましたか。

- A はい
- B いいえ
- C どちらともいえない

### 【②】

①でBまたはCと回答した薬局様に質問です。その理由を教えてください。  
(複数回答可)

- A 品質・効果に疑問がある
- B 患者が拒否
- C 近隣の医療機関が消極的
- D 供給体制が整っていない
- E 貴薬局の負担となるため(在庫管理やシステム改修等)
- F その他( )

## (参考)質問項目

---

### 【③】

ジェネリック医薬品の更なる普及促進には何が必要だと思われますか。  
(複数回答可)

- A 患者の理解
- B 医師の理解
- C ジェネリック医薬品の品質向上
- D ジェネリック医薬品の供給体制の整備、強化
- E 後発医薬品調剤体制加算を上げる等の制度改正
- F その他 ( )

### 【④】

医師が先発医薬品名で処方した場合でも、処方箋がジェネリック医薬品への変更不可となっていない限り、先発医薬品をジェネリック医薬品へ変更して調剤することが可能です。貴薬局では、変更不可となっていない先発医薬品名処方の場合、ジェネリック医薬品への切り替えの推進をされていますか。

- A 積極的に推進している
- B あまり推進していない
- C どちらともいえない

## (参考)質問項目

---

### 【⑤】

④でBまたはCと回答した薬局様に質問です。その理由を教えてください。  
(複数回答可)

- A 医師の判断による処方であり変えづらい
- B 切り替えるメリットがない
- C ジェネリック医薬品の在庫不足
- D 切り替えることで副作用が出る可能性がある
- E その他 ( )

### 【⑥】

中医協が行った調査によると、先発医薬品名処方では一般名処方に比べジェネリック医薬品への切り替え率が低くなっています。先発医薬品名処方の場合でも一般名処方並みにジェネリック医薬品への切り替えがされるためには、何が必要だと思いますか。(切り替え率：一般名処方約77% 先発名処方約38%) (自由記入)